**5月16日　株式会社ABEJA　代表取締役社長　CEO　岡田　陽介　氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

第四次産業革命後に就職するには、技術や専門知識だけでなく、未来を妄想する力も必要だと学びました。僕は大学で機械工学を学んでいて、AIが普及した世界を支える技術者になりたいと思います。AIが世界を動かす時代でも、AIを制御・製造する役割を人間だと信じているので、大学でしっかり勉強したいと思います。”Technopreneur”という言葉がとても印象的でした。自分の技術が経営に生きる可能性があるということを学んで、将来、経営の勉強もしてみたいと思いました。プログラミング等をしっかり身に付けて、将来、立派な”Technopreneur”になります。興味深い貴重なお話をありがとうございました。（理工学部　機械工学科１年）

人工知能についてこれまで特に話を聞いたり、学んだりしたことはなかった。人工知能がどのようなものなのかもよくわかっていなかった。しかし岡田社長のお話を聞き、そして人工知能の映像を見て、非常に驚いた。「人間は勝てない」という言葉を聞いてきっと無理だろうなと思った。世の中ではきっと人工知能について賛成の人も反対の人もたくさんいると思う。私はどちらでもないが、それは何も考えていないというわけではなく、人工知能について大した知識もないのに賛成や反対を唱えるのはおかしいと思うからである。でも今日岡田社長のお話を聞きAIについてただただ感動した。新しく革新的なAIプラットホームテクノロジーを使ったこの事業はすごいと思う。しかしもうこんな風に社会の役に立つことに活用されてそしてビジネスとなっていることに驚いた。そして知っている多くの企業がすでにこのAIに頼っているということを知り、世に広める力、周りを巻き込んでいく力、まだまだ発展していこうとする力、様々な強さにとても感動し、尊敬した。自社のAIにここまで自信を持つことができることが一番すごいなと思った。（教育人間科学部、人間文化過程学部、2年）

プレゼンの画面に工夫が凝らされていて、見ている人の興味を引くように作ってあって、面白かった。世界的にAIが進歩してきていて、この先どんどん機械化されていくというような、理系からすると夢のあるようなことを久々に聞いて、楽しめた。また、AIのすごさを改めて認識した。何度も「こうなることを知っておいた方がいい。」と言っていたことから、今回のAIのことに限らず、これから先「知る」ということは大事だなと思った。AIが極めて進んだ世界は今よりもかえって、きっちりしすぎていて住みにくくなったりもするのかなとも思った。(理工学部　電子情報学科　1年)

まず、人工知能の分野について、自分がほとんど無知であったことが分かりました。私は化学科なのであまりプログラミングや、加えて経営の分野とはあまり縁がなかったのですが、「テクノプレナー」という言葉にもあったように、世界の技術に関して知っておくことで、経営だけでなく自分が生きていくためにいろいろなことを知っておくことに損はないのだ、むしろ知っていかねばならないのだと学ぶことができました。また、AIというと人間がとって代えられてしまうとか、怖いイメージがある人も多いと思うのですが、リベラルアーツを重要視しているというお話を聞いて、ただ技術を生み出していくだけではなく、それに伴うことに関しても責任をもっていくことも大事なのだと改めて感じることができました。(理工学部　化学・生命系学科　３年）

第四次産業革命やIOTなど、名前を知っているが意味や中身を知らない言葉が多かったが詳しく説明していて分かりやすかったし、身近なものとして感じられるようになった。ディープラーニングはとても興味深くすごいと思ったが、一方で車の自動運転が内部構造のわからないシステムに先導されていると思うと少し怖く思えた。１番興味深かった話は、自動運転により自家用車の需要がなくなり、タクシー利用が急増、また運転手の暇つぶしとして娯楽の需要が高まるという話だ。様々なアプローチで物事を眺めることでうまく商売ができると思ったし、このような観点の持ち方は上手く商売ができると思ったし、このような観点の持ち方はとても大切だと思った。（経営学部　経営学科　１年）

ディープラーニングにより、AIがそれ自身で学習し、それを活用することで、ものすごい数のことができるようになることを学びました。しかし、それ以上にAIが発展することによって、他の様々な業界にどのような影響を及ぼすのかを学び、自動運転だけで、自家用車やタクシーなどの車関連の業界だけでなく、不動産業などの一見関係の内容に見える業界まで多大な影響を及ぼすということにとても驚き、もっと多角的に考えることの必要性を感じました。第４次産業革命に向けて、何が起きているかの情報を仕入れ、理解していくことが、時代に乗り遅れずに、自らイノベーションを作るために必須であると学び、視野を広く持って様々な情報を集めていこうと思いました。(理工学部　化学生命系学科　2年)

ビッグデータや人工知能など、今までとは違う企業のお話で興味深かったです。最新のコンピュータのカタカナワードなど聞いたことのないお話がたくさんでした。改めて私たちが知っている企業はB to C ばっかりで、社会に貢献する　B to Bの会社を全然知らないんだなあと思い知らされました。将来のテクノロジーが発展していくとどうなるか、というお話は興味深く自分の将来の就職を考える時、自分でその時の社会で活躍できるような企業を選べるといいなと思いました。 (経営学部　経営学科　1年)

私は電子情報システムEPに所属しているので、今までITや人工知能、機械学習について何度も学んで来ましたが、大抵の場合は実用例を紹介することが多く、Deep learningがどのようにして台頭して来たかを本日の講義で初めて知りました。画像認識技術の存在自体は４〜５年前に科学館で見て以来知っていたのですが、ここ最近のその技術を利用して急激に様々な分野が発展し、例えば私の専門分野である通信分野で言えば、カプセル内視鏡に搭載する小型カメラに画像認識技術を用いてポリープを発見するなど、人間ができる範囲を超えたことをすることができるようになっていて驚きました。本講義で紹介された多くの人工知能の例の中でも特に、NVIDIAの動画で出て来た見えない星を観測する、重力波を検知するというのが素晴らしいと思い、さらに技術が発展して宇宙の謎を多く解き明かして行きたいと思いました。（理工学部　数物電子情報系学科　３年）

今までとは異なって技術と経営の両面からのアプローチでお話しして下さり、新鮮さがあって飽きずに聞くことができました。IoT, Big Date, AI等には現在のビジネスに必要不可欠であるものですが、理論ばかりを聞くだけで実際はどのように利用されているかという現実を見ることは少なかったので、開発者の目線から様々な活用例をわかりやすく説明していただけて、とてもよい経験になりました。特にスライドが文字が少なく、図や絵が多いためとても見やすく理解もしやすいため、今後のプレゼンテーションの参考にしようと思いました。（経営学部　会計・情報学科　2年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**２

技術者としての腕と経営者としての腕を持つ岡田氏を見て、将来研究職に就こうと思ってる自分はただ研究にいそしめば良いのではなく、他の「力」も磨いた方が便利であり輝ける場所も増えると思った。したがって、今大学で勉強している専門科目以外の授業にももっと身を入れるべきだと感じた。（理工学部　化学・生命系学科　3年）

コンピュータについての知識は理系的で距離感を感じることが多いのですが、やはり第四次産業革命が来ると言われているような時代に、このような知識をもたず生活ましては仕事をすることはとても時代遅れで危険だと知りました。距離を感じず積極的に学んでいきたいです。（経営学部　経営学科　１年）

AIをうまく利用すれば、自分の専門である都市開発に十分活かせると思った。人間がどのように生活し、どうすれば快適な生活が送れるかをAIから学び、都市計画に導入していけば、よりよい街づくりが可能になっていくと思う。（都市科学部　都市基盤学科　１年）

**授業スタッフの感想**

問一・二共に「AI（あるいはロボット）が代わることのできない人間にしかできないことを行う人になりたい」という趣旨の回答が多くみられた。

が、多少の時期のずれはあってもAIの代替可能な作業は基本的に人間からAIにとって代わるので、実際には「人間にしかできないこと」もしくは、スポーツといった「AIにも行えるが、人間が果たすことにより価値があること」のどちらかを行わざるを得ない以上なりたいと思うかどうかというのはあまり意味がないと考えた。

また、第一回の講義においてライフスタイルアクセントの山田氏は、この先ロボットに代替されずに残るものは「感性」であるとおっしゃっていたが、本当にそうなのか疑問に感じた。

私は、今回の講義を聞いて、今後の第四次産業革命について自分に直結することとして意識させられました。どちらかといえば、私はAIの技術が進むことに対して、あまり支持していません。ビッグデータを作り、それをAIに解析してもらい活用する、この技術自体は本当にすごいことだと思います。しかし、2011年に私たちが経験し学んだように、何事にも想定外はつきものだと思います。その想定外の事態による代償が小さければいいですが、損失の方がとてつもなく大きかった時の対処はどうするのか、責任は誰がとるのか、という点は本当に大丈夫なのか、とても疑問に思います。技術が先行しないか心配です。それでも、起業するにしろ、就職するにしろ、第四次産業革命の波には乗っていかなければいけないことが分かりました。職人や接客など人間ならではの分野、もしくは、プログラマーや保険業といったAIの台頭により伸びる分野など、AIが出てくることでニーズのある分野は、どんなものがあるか妄想していきたいと思います。次回のインターンシップ・ガイダンスも楽しみです。